

社会教育施設の自己紹介

【施設名】原美術館

【施設概要】

原美術館は1979年、現代美術専門館の草分け的存在として、東京・品川に開館しました。

1988年には群馬県に別館ハラ ミュージアム アークを開館し、両館とも登録博物館として、様々な活動を続けています。

両館の母体となる、アルカンシユール美術財団（1977年設立）は、現代美術を介した国際交流の促進により、日本の現代美術の発展、作家の育成に資するとともに、広く優れた現代美術作品を紹介し、わが国の芸術文化の発展に寄与することを目的としています。

活動のなかでも、作家やキュレーターなど多くの才能を発掘したシリーズ企画展や、日本の優れた現代文化を欧米に紹介した海外巡回展は特に好評を博し、国際舞台でも魅力のある美術館のひとつとして数えられています。

また、当財団の長年にわたる活動実績が評価を得て、文部科学大臣より「特定公益増進法人」の認定を受けています。

原美術館のHP → <http://www.haramuseum.or.jp/>



【特色ある取組】

（1）小・中学校への教育普及事業

学芸部内に小・中学校をはじめとする教育機関との窓口となる教育普及担当者を置き、展覧会案内や意見交換を行っています。学校団体の来館時は、担当教諭との事前の打ち合わせを密にし、学年や学習の目的に合わせた個別ワークシートの（教諭と学芸員による）共同制作や、休館日や開館時間外も利用する鑑賞教室の実施、展覧会出品作家を招いた（教諭と作家、学芸員の三者による）共同ワークショップ企画の実施、送迎バスのアレンジ等、学校現場との柔軟かつ円滑な連携を図っています。（授業の一環としての利用の場合、小・中学生の入館無料。また、小・中・高生は学期中の土曜日は入館無料。70才以上は常時半額）

（2）社会人、教諭等向け教育普及事業

作家や美術関係者による講演会やワークショップ、コンサート、バスツアー（アトリエ訪問や別館ハラ ミュージアム アークでのイベント参加）等を数多く企画。創作の原点を垣間見る機会や、同時代の芸術表現に広く触れる場を提供しています。

学芸員による一般来館者向けのギャラリーガイドを毎週日曜・祝日に行うほか、学校団体・教諭向けのガイドツアー（予約随時受付）や、英語によるギャラリーガイドも隔週で実施しています。

(3) 先進的なホームページの活用

ホームページ内に、「原美術館のもうひとつの部屋へようこそ」と称したコンテンツ ” Door to Art” を開設 (和/英)。動画や音声を駆使したさまざまな切り口で現代美術の世界を紹介し、その普及を図っています。例えば、作家自身が当館での展覧会場を廻りながら自作を語るコーナーは、企画展の終了後も自宅に居ながらにして作家の声を通して展覧会の様子が楽しめる、国内外から好評を博しています。

詳細に関しては→ <http://www.haramuseum.or.jp/jp/common/doorToArt/index.html>

【今後の企画展の紹介】

■ 「原美術館コレクション—日本/亜細亜的現代」

2007年7月28日(土) — 10月28日(日)

草間彌生、李禹煥ら第一線の活躍を続ける作家による、初期の作品をはじめ、日本とアジアの作家による、約50点を展示。新収蔵作品も公開いたします。



【草間彌生 「自己消滅」1980年】

■ 「ピピロッティ リスト: からから」

2007年11月17日(土) — 2008年2月11日(月・祝)

今秋、原美術館では、現代ヨーロッパ美術を牽引するスイス人女性アーティスト、ピピロッティ リストによる「からから」展を開催いたします。

本展はリストにとって日本の美術館における初個展となります。映像、音響、空間を駆使した、リストの代表作10点が一堂に会します。